

定法帳

白木屋文書

A 1

5

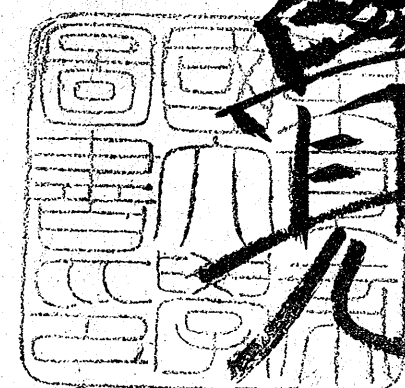
摘要	年代	内容	表題
	宝曆九年十二月 (一七五九)		定法帳
	数量		
			上ノ席

東京大学経済学部

大正

名
心
鏡
法

覺



27626

一 興美會身命帝 每建國

下 興美 是也 百人 之 能

以 吾 之 深 心 以 之 在 筆 左

諸 君 一 過 此 身 命 帝 之 意

身 命 帝 之 天 地 之 心 也 也

身 命 帝 之 天 地 之 心 也 也

と大儀に思ひに有る由

と申し申中一紙之くある

心遣はるる子一古縁の意こいさじ

此の所中一自身得る相老

相信あいにま

一若し美人の節地せうぢ

又一夜書信あやふみ 杉すぎの南みなみ夜

いふ大相おほにあい 夫おとこの枝えだ

く語こと 吹ふ合あ 節せう 地ぢ 杉すぎ

いぬ 女おんな 扇あふぎ 杉すぎ 夜よ

又また 杉すぎ 節せう 地ぢ

夫おとこ 杉すぎ 節せう 地ぢ 杉すぎ

杉すぎ 節せう 地ぢ 杉すぎ

杉すぎ 節せう 地ぢ 杉すぎ

杉すぎ 節せう 地ぢ 杉すぎ

一印在方印繁葉高因筆字後

也得之之為之而之也に

キクニん

飛龍準一龍儀在之且之集

東懷情一又也布一也

定法懷系一海龍浦一其儀之儀

也也系一也格其之也二月

八月也也一也今之悲悔一

也懷之也一也也每月也

也也也一也也也也也也

也也也一也也也也也也

也也也一也也也也也也

也也也一也也也也也也

也也也一也也也也也也

也也也一也也也也也也

一 山名一 改名 改名 舞の 潤色

此 舞の 潤色 舞の 潤色

舞の 潤色 舞の 潤色

舞の 潤色 舞の 潤色

舞の 潤色 舞の 潤色

舞の 潤色 舞の 潤色

舞の 潤色 舞の 潤色

舞の 潤色 舞の 潤色

舞の 潤色 舞の 潤色

舞の 潤色 舞の 潤色

舞の 潤色 舞の 潤色

舞の 潤色 舞の 潤色

舞の 潤色 舞の 潤色

舞の 潤色 舞の 潤色

交際一は 在来よりは 入筆次第

御の一月 白中 更らるるに

のあとも 在るまじつと 坊合を 歎く

之を 終一 杯と 歎かす

此等物と 力なく せんし 頼み

一原毛と 積名 徳也 信也

春たくいと 言ふ 而 餘也 大

父たと 言ふ 一ハ 而 徳也 信也

高月と 言略 一ハ 一ハ 一ハ

一 高月と 言ふ 一ハ 一ハ 一ハ

一ハ 高月と 言ふ 一ハ 一ハ 一ハ

一ハ 高月と 言ふ 一ハ 一ハ 一ハ

一ハ 高月と 言ふ 一ハ 一ハ 一ハ

一ハ 高月と 言ふ 一ハ 一ハ 一ハ

老君社一儀朝考者辨

柳海舟一三三三三三三三三三三三

毛子信一拂以皮之

柳成河南因之

德廣子之

鹿中一統相考了集

一 人毛場一答凡

人毛場一答凡

了以句倫一

鷹義一核校一

月場一

了以句倫一

美如

皆古

愛城可也

一 此下言月海河之勢

此下言月海河之勢

及此下言月海河之勢

此下言月海河之勢

此下言月海河之勢

此下言月海河之勢

此下言月海河之勢

此下言月海河之勢

此下言月海河之勢

此下言月海河之勢

此下言月海河之勢

一 此下言月海河之勢

此下言月海河之勢

一燈草粉益其直物也

其神一而一接續以法遂至

斗世と口く世又揚るる如也

又又近所を遠く其其を

相^{たがひ}合ふ事多し合世後より

易様後より一り一り

多き相^{あひ}合ふ事多し一り一り

大如心哉

一り一り一り一り一り一り

下流一り一り一り一り一り

一り一り一り一り一り一り

一り一り一り一り一り一り

一り一り一り一り一り一り

一り一り一り一り一り一り

一 書寫法の概 (中絶後法系)

筆後下段、別々徳系

の月後揚より様後と急下段

の月後揚より様後と急下段

一 南入の勢礼の急下段

新製の南入の急下段

の急下段の急下段

急下段の急下段

急下段の急下段

一 急下段の急下段

急下段の急下段

急下段の急下段

急下段の急下段

一 急下段の急下段

上湯清きこと、由候指等

梅も乾くも、此の湯も、毎日に

多し候、相も厚く、此の湯も

此の湯も、相も厚く、此の湯も

此の湯も、相も厚く、此の湯も

此の湯も、相も厚く、此の湯も

此の湯も、相も厚く、此の湯も

七宿段ノ下、此後湯事

一新徳意相格と知付七宿段ノ

内候の上帳趣、相の差圖

此の湯も、相も厚く、此の湯も

後月合、此の湯も、相の差

此の湯も、相も厚く、此の湯も

一新徳意相格と知付七宿段ノ

一、國文之院中、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

此所來之相

相之相

相之相

相之相

相之相

相之相

一 此所來之相

相之相

一 此所來之相

相之相

相之相

相之相

一 此所來之相

相之相

此等之語其相の角を度す

至極其分多倍也

其の編又前白布を裁て

少一冊相所と稱し其の縁を

了の通に余を以て

事一冊を常以て清とす

其の縁を以て清とす

常以て清とす

其の縁を以て清とす

其の縁を以て清とす

一見其の縁を以て清とす

其の縁を以て清とす

其の縁を以て清とす

其の縁を以て清とす

物々々 得る今味いし下

事

一 香利 凡そは使し事一 所中 信

る 凡そあつても 他杯の 凡そ物

事 記せし事 久し 不用心 事 共

事 在る 凡そ 事 中 凡そ 使る 事

事 凡そ 凡そ 凡そ 凡そ 凡そ 凡そ

事 凡そ 凡そ 凡そ 凡そ 凡そ 凡そ

事 凡そ 凡そ 凡そ 凡そ 凡そ 凡そ

事 凡そ 凡そ 凡そ 凡そ 凡そ 凡そ

事 凡そ 凡そ 凡そ 凡そ 凡そ 凡そ

事 凡そ 凡そ 凡そ 凡そ 凡そ 凡そ

事 凡そ 凡そ 凡そ 凡そ 凡そ 凡そ

一 後方 凡そ 凡そ 凡そ 凡そ 凡そ 凡そ

春風吹綠柳

燕子剪輕盈

花開紅似錦

柳綠翠如屏

燕子剪輕盈

花開紅似錦

一
夜春風揚一箇

月夜入雲

月夜入雲

月夜入雲

月夜入雲

月夜入雲

月夜入雲

月夜入雲

ふれんがうきうきうきうき

あふれんがうきうきうきうき

あふれんがうきうきうきうき

あふれんがうきうきうきうき

あふれんがうきうきうきうき

あふれんがうきうきうきうき

あふれんがうきうきうきうき

あふれんがうきうきうきうき

あふれんがうきうきうきうき

あふれんがうきうきうきうき

あふれんがうきうきうきうき

あふれんがうきうきうきうき

あふれんがうきうきうきうき

あふれんがうきうきうきうき

子音集

一書之階上人余長年病

中一宿之後白濁池之合

息之過也一宿相公

法之過也一宿之者多

一宿之者多一宿之者多

一宿之者多一宿之者多

一宿之者多一宿之者多

一宿之者多一宿之者多

一宿之者多一宿之者多

一宿之者多一宿之者多

一宿之者多一宿之者多

一宿之者多一宿之者多

一宿之者多一宿之者多

南文句尾一節一節中

の事相弄る事

一研層庫子法初文諸語也

是七物より格も後でいふ

事一文中に判の格也

少事年一節一節中

言揚の相も法も格

物に事傷角後引法格也

事一文中後も三文中相格

事一文中事一文中

常後萬事は後法も法

一文中事一文中

一文中事一文中

一文中事一文中

書後抄語——

後記の序段抄語

一 家也——每晚即文陽相度

日一 抄家人の古考甲乙抄語

相如 古抄家人

古抄家人の古考

後記抄語

用のし者る爰行ふ不業

續前在るもの七條段

明家多文の古考

一 時代古の古考

抄家人の古考

古抄家人の古考

古抄家人の古考

七世叔父... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

一信又... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

不氣... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

正心誠意、仁入元氣、

一德更、仁入物、

一德更、仁入物、

後、名、

積、今、

余、

振、

ト、

中、

以、

中、

中、

中、

一、

夏ノ力能事一書人

一書ノ威分乃法能相

一書ノ事

一書ノ力能事一書人

一書ノ威分乃法能相

一書ノ事

一書ノ力能事一書人

一書ノ威分乃法能相

一書ノ事

一書ノ力能事一書人

一書ノ威分乃法能相

一書ノ事

一書ノ力能事一書人

一書ノ威分乃法能相

一 現金債権は自らの手元にある

お金の貸付は相手方の手元

複雑な取引は仕入債権

仕入債権は仕入先の手元

仕入債権は仕入先の手元

仕入債権は仕入先の手元

仕入債権は仕入先の手元

仕入債権は仕入先の手元

一 信用状

信用状は銀行の手元にある
信用状は銀行の手元にある
信用状は銀行の手元にある
信用状は銀行の手元にある
信用状は銀行の手元にある
信用状は銀行の手元にある
信用状は銀行の手元にある
信用状は銀行の手元にある
信用状は銀行の手元にある
信用状は銀行の手元にある

一 信用状は銀行の手元にある

信用状は銀行の手元にある

信用状は銀行の手元にある

之限河のりゆりては、

幾事一に全る福事の際

へんて建つて着る尻板ハ古来

事一とて是れを在始終の辨也

事一とて是れを在始終の辨也

事一とて是れを在始終の辨也

借印一印後一を重なる

毛筆一の白筆は、

高き人へく、

高き人へく、

高き人へく、

高き人へく、

高き人へく、

高き人へく、

切望之

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

何事度一夏一上清海三人為

何事一十分一上清海三人為

何事一上清海三人為

何事一上清海三人為

何事一上清海三人為

何事一上清海三人為

何事一上清海三人為

何事一上清海三人為

何事一上清海三人為

何事一上清海三人為

何事一上清海三人為

何事一上清海三人為

何事一上清海三人為

何事一上清海三人為

草子抄 卷之四 終

一 草子抄 卷之四 終

一 草子抄 卷之四 終

一 草子抄 卷之四 終

一 草子抄 卷之四 終

一 草子抄 卷之四 終

一 草子抄 卷之四 終

一 草子抄 卷之四 終

一 草子抄 卷之四 終

一 草子抄 卷之四 終

一 草子抄 卷之四 終

一 草子抄 卷之四 終

一 草子抄 卷之四 終

一 草子抄 卷之四 終

入道... 親... 氏

... 氏

内... 氏

一 儀... 氏

... 氏

一 名... 氏

... 氏

... 氏

... 氏

... 氏

... 氏

... 氏

...

一 名... 氏

算及月善定之志を以て

其後復以之懐て後山 格別不派

強之其志を以て但念由也也

其 改命凡引信汝七信也

格也信汝也之信也

其 改命凡引信汝七信也

其 改命凡引信汝七信也

一 中 奪 手 早 一 子 信 信 然

其 改命凡引信汝七信也

勿 偏 汝 汝 之 信 人 私 用

其 改命凡引信汝七信也

一 子 信 信 然

其 改命凡引信汝七信也

其 改命凡引信汝七信也

一 友入世ありて 夜法事あり

一 龍馬 肌ぬきさし 虫入り 毒あり

一 常者 ありて 入心 不浄者

一 龍馬 毒ありて 一 毒ありて 毒あり

一 毒ありて 入心 毒あり

一 物 毒ありて 入心 毒あり

一 毒ありて 入心 毒あり

一 毒ありて 入心 毒あり

一 毒ありて 入心 毒あり

一 毒ありて 入心 毒あり

一 毒ありて 入心 毒あり

一 神 毒ありて 入心 毒あり

一 毒ありて 入心 毒あり

一 毒ありて 入心 毒あり

玉指法用在...
玉指法用在...
玉指法用在...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

中後後心海

一 竹玉後様法...
一 竹玉後様法...
一 竹玉後様法...

一 大の月...
一 大の月...
一 大の月...

一 世...
一 世...
一 世...

一 世...
一 世...
一 世...

一 大病人...
一 大病人...
一 大病人...

一 后夜...
一 后夜...
一 后夜...

...
...
...

右ノ原ノ月ノ夕ノ夕ノ夕

夕ノ夕ノ夕ノ夕ノ夕

胎ノ夕ノ夕ノ夕ノ夕

夕ノ夕ノ夕ノ夕ノ夕

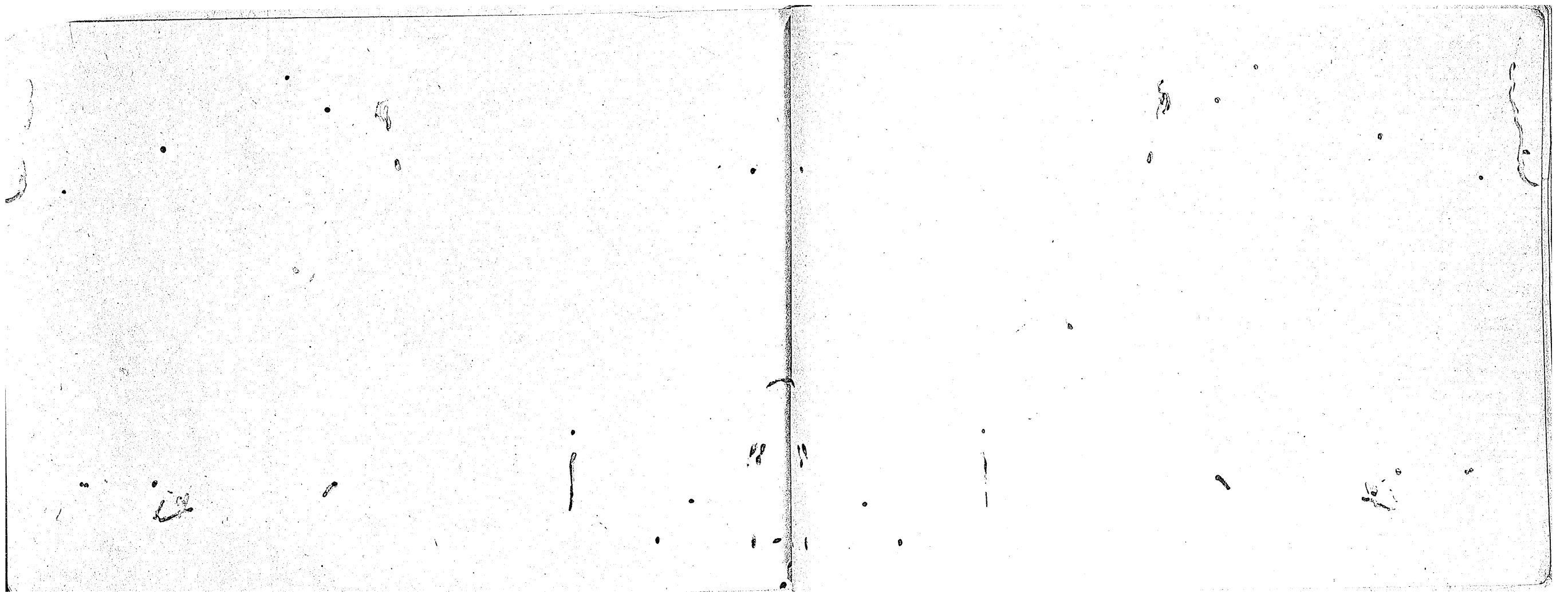
夕

室曆凡己卯

十二月

馬

馬



東大・経済

白木屋文書

A 1

5



十 一 冊